



降旗 達生
ハタコンサルタント
代表取締役

工事現場の施工管理をする技術者に、三つのアドバイスをした。

「どんなに疲れていても、眠たくても、仮に熱があっても毎日欠かさず最低1ページの本を読んでください」

「現場の職人さん、近隣住民、発注者と雑談をするように」

「人と会うときははじから一方的に話すのではなく、相手が話したいようなことを質問する(とでなくさんのことを聴いてあげよう)」

皆さんはこの三つを理解し、対応できている、もしくはすでにその三つの資質

を持っていることだろう。

だからこそ現場を任せられている。この三つのアドバイスは次の2点に要約でき

「刃を研べ」「ラポール」

たった二つの大切なこと

どのような工事現場でも、この二つは成功の鍵を握っている。この二つを体得すれば現場運営が成功すると、これを読んでる方に保証しよう。

この二つのうち、まず「刃を研べ」について説明

する。

料理人を思い描いてみてほしい。人気のある料理人だと毎日満席で、夜遅くまで料理を作っている。また朝は早くから仕入れに市場にでかけ、さらにはその後は

料理人を思い描いてみてほしい。人気のある料理人だと毎日満席で、夜遅くまで料理を作っている。また朝は早くから仕入れに市場にでかけ、さらにはその後は

味が落ちていたのだ。

施工管理技術者は「知的アスリート」だ。「知的アスリート」にとつての包丁は知力だ。本を読んだり、新しい工法を学んだり、歩掛かりをまとめることが、「刃を研べ」ということだ。

刃を研がないとそのうち刃こぼれがして、工事の品質が徐々に下がることだろう。学び続け、自らを磨くことが大切だ。

次に「ラポール」について説明しよう。「ラポール」とは臨床心理学の用語で、相互を信頼し合い、安心して自由に振る舞ったり、感情の交流を行える関係が成立している状態を表す。

止になった

・発注者への設計変更の書類が不十分で、設計変更が認められなかった。これらのミスは、人間関係が「ラポール」の状態になっていないことが原因だ。「ラポール」の状態を作るために1番目に必要なことは「雑談力」だ。

・朝礼前に職人と雑談をしていると、こちらの指示が十分に伝わっていないことに気づき再度図面に基

いて詳細説明をした。・近隣住民と道ですれ違うときに挨拶だけでなく「お庭の花がきれいですね」などと雑談を交えることで家に呼ばれるようになり、少しの騒音であれば我慢してもらえるようになった。

変更のお願いをすると認めてもらった。2番目に必要なことは「質問力」だ。これは相手が話したいことをうまく引き出す技術だ。

「いつどこで、だれと」と聴くと相手の心が少し開く。

「なぜ、なに、どのようなにして」と聴くと本音が顔を出す。

「他には、具体的にいうと、かみ砕いて言うと、だど…すぎるのですか」と聞くときに詳しく事情を掘り下げて聴くことができる。

「だれの支えがあったのですか、どうしてそんなにがんばれたのですか」と聴くと人に対する感謝の気持ちを思い出し、相手の心が熱くなるものだ。

「刃を研べ」「ラポール」はどちらかといえば、技術者にとって苦手なこともかもしれない。しかしこの二つを身につけることで仕事をスムーズに進めることができるようになる。

所

論

諸

論

「刃を研べ」という評判が立った。包丁の手入れを怠り、刃こぼれのした包丁で切った料理は知らず知らずのうちに

現場で職人に指示ミスをして手直しが発生した。近隣住民から騒音クレームがあり、工事が一時中

発注者と検査に向かう道すがら、雑談をする中で事業予算に余裕があることを聞き、その範囲内で設計